

令和5年度一般選抜前期日程・実技型（体育）小論文
（出題の意図及び解答例）

出題の意図及び解答例

設問

出題の意図：

資料の読み取りに基づく論理的思考力・表現力の程度を問う。日本の死亡率と年齢階級別死亡者数の年次推移から、健康対策の成果を捉え、現在の健康課題へのつながりを論理的に整理して記述する能力を問う。

解答例：

日本は戦後から社会経済が発展したことにより、国民の栄養・衛生状態が改善されるとともに、保健・医療サービスが充実していき平均寿命が延伸し、死亡率が著しく低下した。特に14歳以下の死亡数が著しく減少している。これは妊婦の健康状態や出生後の乳児を取り巻く養育環境が改善したことによる新生児・乳児死亡率の低下によると考えられる。資料より、昭和54年以降の死亡率の上昇傾向とともに75歳以上の死亡数が増加している。一方で、15～64歳の死亡数は緩やかに減少しており、65～74歳の死亡数もほぼ横ばいである。つまり、高齢化が進み、75歳以上まで存命する割合が高くなったと考えられる。死亡率の上昇を防ぐためには、75歳以上の高齢者の健康保持増進が重要となるが、寿命は有限である。日本では少子化も進んでいることから、根本的には日本の少子化に歯止めがかからない限り、死亡率の上昇は止められないと考えられる。

（394字）

解答要点：

【データ解釈】

- ・死亡率の低下要因：全体の死亡率低下が、14歳以下の死亡数の減少と関連していることを読み取る。平均寿命の延伸要因と関係していることがわかる
- ・死亡率の上昇要因：全体の死亡率増加が、75歳以上の死亡数の増加と関連していることを読み取る（他の年代は横ばいか低下）。高齢化が進んでいることがわかる。

【健康対策の成果と健康課題】

- ・死亡率の低下から平均寿命の延伸要因を改善できた。
➡平均寿命の延伸要因の改善は、特に新生児・乳児死亡率を低下させる

- 平均寿命の延伸と高齢化が進むことで高齢者死亡数が増加した。高齢者の健康保持増進が健康課題として挙げられるが、寿命は有限であることから高齢者への健康対策のみでは死亡率は低下させられない。
- 根本的な原因は少子化問題にあり、人口減少がますます加速する。